

調 査 研 究

近親婚の頻度に影響をおよぼす要因に関する研究

今 泉 洋 子

I はじめに

近親婚（血族結婚ともいう）とは血縁関係にある者同士の結婚のことであり、わが国において法律上認められている最も血縁の近い結婚は、いとこ結婚である。わが国における近親婚の頻度調査は、戦前・戦後をとうして数多く行われてきたが、これらの調査はすべて隔離集団、あるいは大都市を含めた地域集団についてである¹⁾。一方、日本全国を代表する近親婚調査は1972年に初めて行われた²⁾。しかしながら、その後10年間にわたり近親婚調査は僅かしか行われなかった。そこで、筆者らは1983年9月1日に全国から6地域を選び近親婚調査を行った。一方、近親婚の頻度に影響をおよぼす要因についての研究は少なく、これまでになされた研究は配偶者の出生地間距離³⁾、社会経済的要因⁴⁾、宗教⁵⁾、都心⁶⁾などである。

本研究は近親婚率の最近の動向並びに、近親婚に影響をおよぼす要因について述べることにしたい。この分析で用いた資料は1983年9月1日に実施した「結婚に関する人口学的調査」結果に基づくもの

1) Taku Komai, "Genetic studies on inbreeding in some Japanese populations. I. Introductory remarks", *Japanese Journal of Human Genetics*, Vol. 17, 1972, pp. 87-113.

2) Yoko Imaizumi et al., "Inbreeding in Japan: Results of a nation-wide study", *Japanese Journal of Human Genetics*, Vol. 20, 1975, pp. 91-107.

3) Yoko Imaizumi et al., "Marital distance, parent-offspring distance, and coefficient of kinship in Japan", *Japanese Journal of Human Genetics*, Vol. 17, 1972, pp. 10-19.

Yoko Imaizumi, "A demographic approach to population structure in Gyoda and Hasuda, Japan", *Human Heredity*, Vol. 27, 1977, pp. 314-327.

Yoko Imaizumi, "Population structure in Kanoya population, Japan", *Human Heredity*, Vol. 28, 1978, pp. 7-18.

4) W. J. Schull, et al., "The Effects of Inbreeding on Japanese Children", *New York, Harper and Row*, 1965.

W. J. Schull, et al., "The effects of parental consanguinity and inbreeding in Hirado, Japan. V. Summary and interpretation", *American Journal of Human Genetics*, Vol. 24, 1972, pp. 425-453.

Taku Komai et al., "Genetic studies on inbreeding in some Japanese populations. II. The study of school children in Shizuoka: History, frequencies of consanguineous marriages and their subtypes, and comparability in socioeconomic status among consanguinity classes", *Japanese Journal of Human Genetics*, Vol. 17, 1972, pp. 114-148.

5) W. J. Schull, et al., "Kuroshima: The impact of religion on an island's genetic heritage", *Human Biology*, Vol. 34, 1962, pp. 271-298.

W. J. Schull, et al., "Hirado: Temporal trends in inbreeding and fertility", *Proceedings of the National Academy of Sciences*, Vol. 59, 1968, pp. 671-679.

吉川勲, 「五島列島集団に関する人類遺伝学的研究. II. 近親婚に関する分析」, 『長崎医学会雑誌』, 52巻, 1977, pp. 300-316.

6) 今泉洋子他, 前掲 (注2).

である。この調査は全国から6地域(旭川市と8町, 多賀城市, 身延町, 岡崎市, 川西市, 福江市)を選び, それぞれの地域に在住している夫妻とも65歳未満の夫婦を対象としている。調査方法はアンケート方式によった。なお, 1983年調査における近親婚の種類は, いとこ結婚, いとこ半結婚(いとこといとこの子供との間の結婚), またいとこ結婚(はとこ結婚ともいい, いとこの子供同士の結婚のこと), またいとこ半結婚(またいとこ, またいとこの子供との間の結婚), その他の血縁関係にある結婚(上記以外の血縁関係)の5種類である。近親婚率の計算は近親婚の組数に対する全夫婦組数の割合である。なお, この調査の概要については人口問題研究所実地調査報告書⁷⁾を参照されたい。

II 近親婚率の地域格差

近親婚率の全国調査から, 近親婚率は九州地方で高く, 北海道で低いこと, また, 郡部の近親婚率は市部の値の2倍ほど高いことが明らかにされている⁸⁾。図1は調査区別にみた近親婚率を示している。近親婚率が一番高いのは福江市で7.89%, 次に高い値を示すのは身延町で5.53%である。一方, 一番低い値は旭川地方で0.78%である。したがって, 福江市の近親婚率は旭川地方の値より10倍も高いことが分かる。

III 近親婚率の推移

近親婚率は年代によって, どのように変化してきたかをみることにしたい。図2は近親婚率の年次推移を示しており, 実線は1983年の調査⁹⁾, 点線は1972年の全国調査¹⁰⁾から得られた結果である。この図は結

図1 近親婚率の地域格差

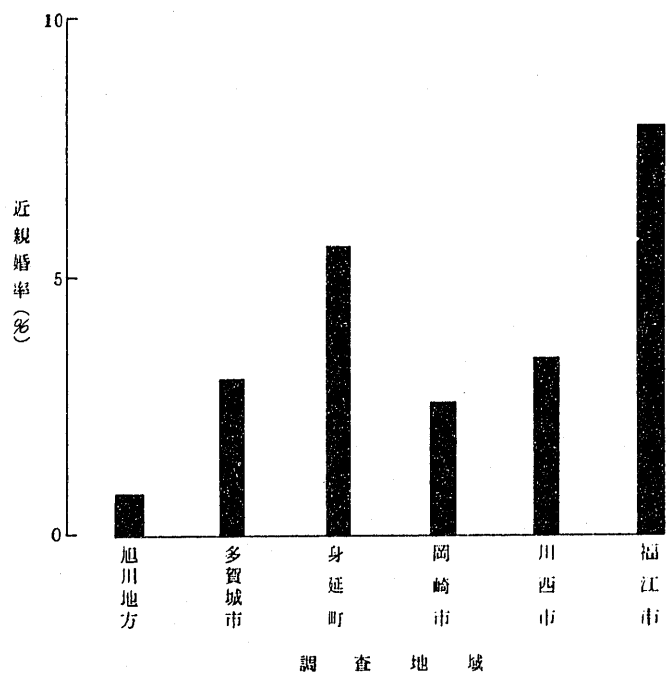
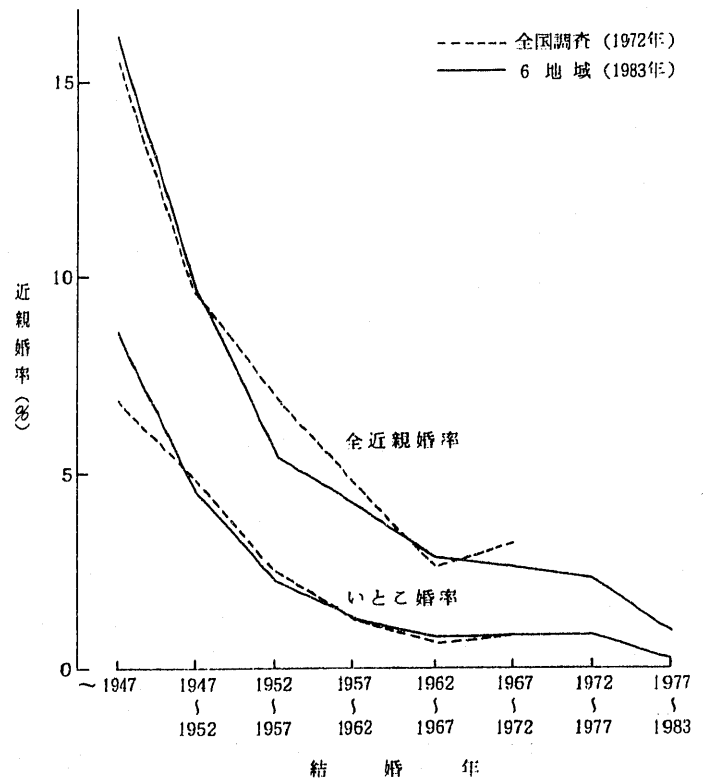


図2 近親婚率の年次推移



7) 厚生省人口問題研究所『結婚に関する人口学的調査』, 実地調査報告資料, 1984年10月。

8) 今泉洋子他, 前掲(注2)。

9) Yoko Imaizumi, "A recent survey of consanguineous marriages in Japan", *Clinical Genetics*, Vol. 30, 1986a, pp. 230-233.

10) 今泉洋子他, 前掲(注2)。

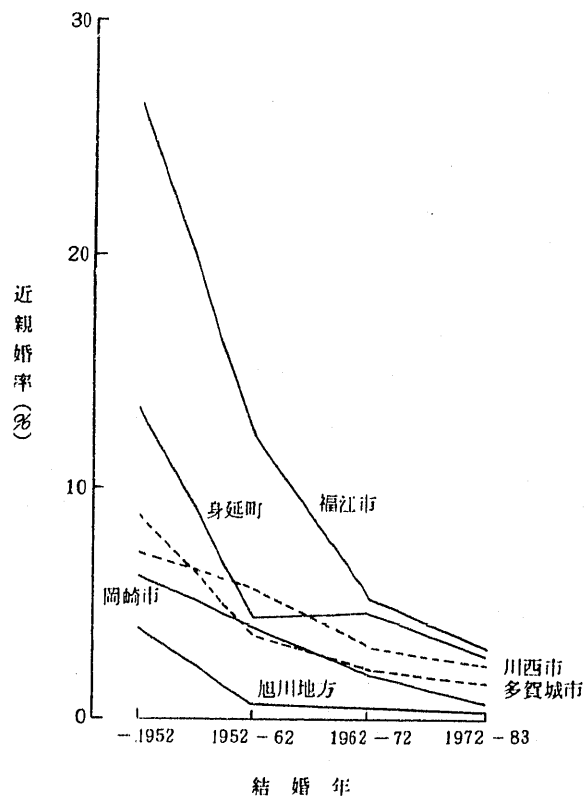
表1 近親婚の頻度と近交係数の年次推移

結 婚 年	他人結婚	いとこ結婚	いとこ半結婚	はとこ結婚	はとこ半結婚	その他の近親婚	不詳	合計	いとこ婚率(%)	全近親婚率(%)	近交係数
1942年6月以前	10	1	-	1	-	-	3	15	} 8.58	} 16.17	} 0.00647
1942年6月-1947年5月	201	25	5	9	3	5	40	288			
1947年6月-1952年5月	567	33	9	19	4	5	93	730	4.52	9.59	0.00366
1952年6月-1957年5月	777	22	10	12	5	4	144	974	2.26	5.44	0.00197
1957年6月-1962年5月	926	14	10	16	1	7	165	1,139	1.23	4.21	0.00127
1962年6月-1967年5月	1,099	10	5	9	3	9	126	1,261	0.79	2.85	0.00075
1967年6月-1972年5月	1,263	12	7	7	6	4	82	1,381	0.87	2.61	0.00081
1972年6月-1977年5月	1,248	12	3	12	1	3	63	1,342	0.89	2.31	0.00077
1977年6月-1982年5月	1,076	2	-	2	2	6	29	1,117	0.18	1.07	0.00015
1982年6月-1983年8月	228	1	-	-	-	-	5	234	0.43	0.43	0.00027
不詳	295	14	2	5	1	-	427	744	1.88	2.96	0.00138
合 計	7,690	146	51	92	26	43	1,177	9,225	1.58	3.88	0.00134

婚年次が1947年以前, 1947-1952年, 1952-1957年, 1957-1962年, 1962-1967年, 1967-1972年, 1972-1977年, 1977-1983年の8年次群について, いとこ婚率および全近親婚率を示している. 両調査ともに1947年以前に結婚したグループの近親婚率(15-16%)は1967-1972年に結婚したグループの値(3%)の5倍も高いことが分かる. 同様に, いとこ婚率も前者は後者の8-10倍も高いことが分かる. なお, いとこ婚率と全近親婚率は1972年以降も減少していることが分かる. 図2から明らかなように, いとこ婚率の減少は1967年まで急速に減少するが, その後の10年間は横ばい傾向にある. しかしながら, 最近の5年間で, 更にいとこ婚率は減少している. 一方, 全近親婚率は年次と共に減少している. また, 表1に示してある近交係数¹¹⁾は1967年まで減少するがその後の10年間は同程度の値を示し, 1977年以降は再び減少している.

次に, 調査地域別に近親婚率の推移をみることにしたい(図3). この図から明らかなように, どの年次でも福江市の近親婚率は他の地域の値よりも高いことが分かる. 一方, 旭川地方の近親婚率はどの地域よりも低い値を示している. 身延町と岡崎市は1952-1962年の値を除けば, それぞれ二番目に高い値と低い値を示していることが分かる. また, どの地域でも近親婚率は年次と共に減少していることが分かる.

図3 各地域における近親婚率の年次推移



11) 近交係数は集団全体あるいはその一部をなす特定の個体の集まりについて定義されるもので, 任意の一個体の相同遺伝子が共通の祖先遺伝子から由来する確率である. 例えば, いとこ結婚によって生ずる子供の近交係数は1/16となる. 同様に, いとこ半結婚では1/32, またいとこ結婚では1/64となる.

IV 近親婚率に影響を及ぼす要因

次に、なぜ近親婚率が減少したのかをみるために、近親婚率に影響を及ぼす要因についてみることにしたい。本分析で用いた要因は配偶者の出生地間距離、配偶者の居住地間距離、知り会った機会、

表2 夫婦の出生地組み合わせ別にみた近親婚率の年次推移

出生地組み合わせ 結婚年次	他人結婚	近 親 婚					不 詳	合 計	近親婚率 (%)
		いとこ	いとこ半	またいとこ	またいとこ半	その他			
同 一 市 町 村									
— 1952	283	34	11	21	4	5	55	413	18.16
1952 — 1957	232	10	5	5	2	3	44	301	8.31
1957 — 1962	239	7	6	8	1	1	47	309	7.44
1962 — 1967	295	6	4	6	1	1	32	345	5.22
1967 — 1972	306	5	3	2	4	1	16	337	4.45
1972 — 1977	302	4	1	8	1	1	21	338	4.44
1977 — 1983	359	1	0	2	2	3	3	370	2.16
不 詳	64	2	2	3	0	0	14	85	8.24
合 計	2,080	69	32	55	15	15	232	2,498	7.45
同県(但し、異市町村)									
— 1952	312	13	2	4	1	3	50	385	5.97
1952 — 1957	353	5	0	2	3	0	56	419	2.39
1957 — 1962	377	6	3	7	0	4	58	455	4.40
1962 — 1967	382	3	0	2	1	4	38	430	2.33
1967 — 1972	454	0	1	1	1	2	35	494	1.01
1972 — 1977	463	6	1	3	0	2	19	494	2.43
1977 — 1983	576	2	0	0	0	2	18	598	0.67
不 詳	104	4	0	0	1	0	8	117	4.27
合 計	3,021	39	7	19	7	17	282	3,392	2.62
他 県									
— 1952	129	7	1	2	0	0	18	157	6.37
1952 — 1957	144	5	4	5	0	0	30	188	7.45
1957 — 1962	219	0	1	1	0	1	40	262	1.15
1962 — 1967	299	0	1	0	1	3	42	346	1.45
1967 — 1972	356	6	2	4	1	1	19	389	3.60
1972 — 1977	387	2	1	1	0	0	15	406	0.99
1977 — 1983	303	0	0	0	0	0	8	311	0
不 詳	56	4	0	2	0	0	3	65	9.23
合 計	1,893	24	10	15	2	5	175	2,124	2.64
外 国*									
合 計	176	2	0	1	0	2	13	194	2.58
不 詳									
合 計	520	12	2	2	2	4	475	1,017	2.16

* 夫妻のうち少くとも1人は外国生れ

表3 夫婦が知り合った時に住んでいた住所地組み合わせ別近親婚率

結婚前の住所地 組み合わせ	他人 結婚	近 親 婚					不 詳	合 計	いとこ 婚率(%)	全近親 婚率(%)
		いとこ	いとこ半	またいとこ	またいとこ半	その他				
同一県同士										
同一市町村	3,785	66	28	51	16	23	400	4,369	1.51	4.21
他市町村	2,588	45	6	19	6	13	213	2,890	1.56	3.08
他県同士	941	23	14	17	4	6	68	1,073	2.14	5.96
外国を含む*	8	0	0	1	0	0	0	9	0	11.11
不 詳	368	12	3	4	0	1	496	884	1.36	2.26
合 計	7,690	146	51	92	26	43	1,177	9,225	1.58	3.88

* 配偶者の少くとも1人は外国居住者を含んだ組み合わせ。

結婚形態，社会経済的要因，宗教，続柄，結婚の動機などである。

1. 出生地間距離

夫婦の出生地間の距離が近いほど近親婚率は高く，距離が遠くなるにつれて近親婚率は低くなる¹²⁾。本分析は夫婦の出生地間の距離としてではなく，出生地組み合わせ別に近親婚率を比較した。夫婦の出生地組み合わせとして同一市町村同士，同一県同士（但し，異市町村），他県同士に分類した。表2は夫婦の出生地組み合わせ別にみた近親婚率の年次推移を示している。この表から明らかなように同一市町村同士での近親婚率（7.5%）は他の出生地組み合わせの値（2.6%）より3倍も高いことが分かる。また，この表から同一市町村同士の夫婦における近親婚率は，どの結婚年次でも他の組み合わせの値より高いことが分かる。

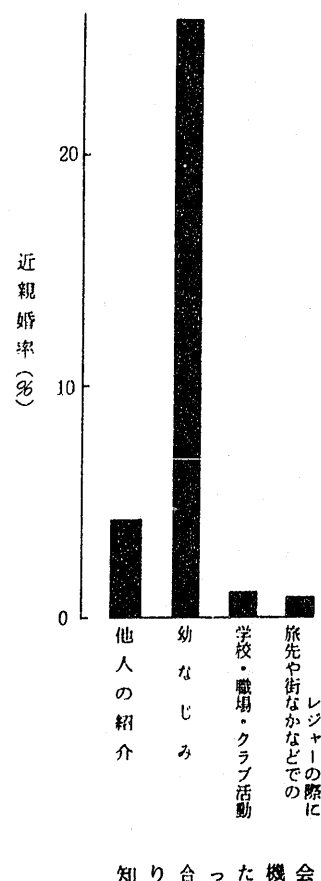
2. 居住地間の距離

知り合った時に住んでいた夫と妻の住所地組み合わせ別に近親婚率をみることにしたい（表3）。結婚前の住所地組み合わせが同一市町村同士の夫婦の近親婚率は4.2%，同一県の異市町村同士の値は3.1%，他県同士の値は6.0%であるから，他県同士の夫婦の値が一番高いことが分かる。このことから，近親婚率は夫婦の居住地間の距離とは相関が無いことが分かる。

3. 知り合った機会

配偶者が知り合った状況により，近親婚率に差があるか否かをみたい。本調査において知り合った機会として，他人の紹介，幼なじみ，学校・職場・クラブ活動，旅先や街なかなどでのレジャーの際に（偶然的出会い），その他の5種類に分類し，各夫婦がどの項目に該当するかを尋ねた。図4は知り合った機会別の近親婚率を示している。知り合った機会が他人の紹介では4.3%（201/4,713），幼なじみの場

図4 知り合ったきっかけ別にみた近親婚率



12) 今泉洋子，前掲（注3）。

表4 結婚形態別にみた近親婚の頻度と近交係数の年次推移

結婚形態 結婚年次	他人結婚	近 親 婚					不 詳	合 計	近親婚率 (%)	近交係数
		いとこ	いとこ半	まいとこ	またまいとこ半	その他				
見合結婚										
-1952	479	32	9	12	4	9	97	642	10.28	0.00389
1952-1957	482	12	6	6	5	1	83	595	5.04	0.00180
1957-1962	515	4	4	8	0	2	99	632	2.85	0.00079
1962-1967	570	5	1	3	3	4	69	655	2.44	0.00063
1967-1972	519	5	2	5	2	4	34	571	3.15	0.00082
1972-1977	412	3	0	7	0	3	23	448	2.90	0.00066
1977-1983	377	1	0	0	1	6	16	401	2.00	0.00018
不詳	148	6	2	2	1	0	29	188	5.85	0.00253
合計	3,502	68	24	43	16	29	450	4,132	4.36	0.00140
恋愛結婚										
-1952	227	6	2	6	0	0	25	266	5.26	0.00200
1952-1957	243	1	2	4	0	1	35	286	2.80	0.00066
1957-1962	328	4	2	5	0	4	48	391	3.84	0.00100
1962-1967	465	1	3	1	0	3	45	518	1.54	0.00033
1967-1972	687	6	3	2	2	0	41	741	1.75	0.00070
1972-1977	782	7	2	3	1	0	29	824	1.58	0.00067
1977-1983	880	2	0	2	1	0	15	900	0.56	0.00018
不詳	131	3	0	2	0	0	16	152	3.29	0.00144
合計	3,743	30	14	25	4	8	254	4,078	1.99	0.00067
その他										
-1952	68	17	3	8	3	1	5	105	30.48	0.01243
1952-1957	51	7	1	2	0	2	9	72	16.67	0.00694
1957-1962	76	6	4	3	1	1	9	100	15.00	0.00555
1962-1967	58	4	1	5	0	2	9	79	15.19	0.00455
1967-1972	51	1	2	0	2	0	4	60	8.33	0.00234
1972-1977	50	2	1	2	0	0	7	62	8.06	0.00302
1977-1983	40	0	0	0	0	0	2	42	0	0
不詳	15	5	0	1	0	0	3	24	25.00	0.01367
合計	409	42	12	21	6	6	48	544	15.99	0.00620
不詳										
-1952	4	4	0	3	0	0	9	20	-	-
1952-1957	1	2	1	0	0	0	17	21	-	-
1957-1962	7	0	0	0	0	0	9	16	-	-
1962-1967	6	0	0	0	0	0	3	9	-	-
1967-1972	6	0	0	0	0	0	3	9	-	-
1972-1977	4	0	0	0	0	0	4	8	-	-
1977-1983	7	0	0	0	0	0	1	8	-	-
不詳	1	0	0	0	0	0	379	380	-	-
合計	36	6	1	3	0	0	425	471	9.77	0.00096

合の近親婚率は25.8% (63/244), 学校・職場・クラブ活動などの場合には1.2% (36/3,136), 偶然の出会いでは0.9% (3/341)と知り合った機会によって近親婚率はかなりの格差が見られる。なお, 知り合った機会別の近親婚率を出生地組み合わせ別にみると, 幼なじみにおける近親婚率は出生地間の距離が遠い夫婦ほど高い値を示していた¹³⁾。

4. 結婚形態

各夫婦に見合結婚, 恋愛結婚, その他の結婚のどれに該当するかを尋ねた。表4は結婚形態別にみた近親婚率と近交係数の年次推移を示している。近親婚率はその他の結婚で一番高く16%, 次が見合結婚で4.4%, 一番低いのは恋愛結婚で2%である。どの結婚形態でも1952—1957年に結婚したグループの近親婚率は1952年以前に結婚したグループの値の半分に減少している。その後, 見合結婚による近親婚率は1957

年から1977年まで3%と横ばい傾向を示している。これに対し, 恋愛結婚における値は1957年から1962年までやや上昇するが, 1962年から1977年まで1—2%と横ばい傾向を示し, その後0.6%まで減少している。近交係数の年次推移は近親婚率と同じ傾向を示している。

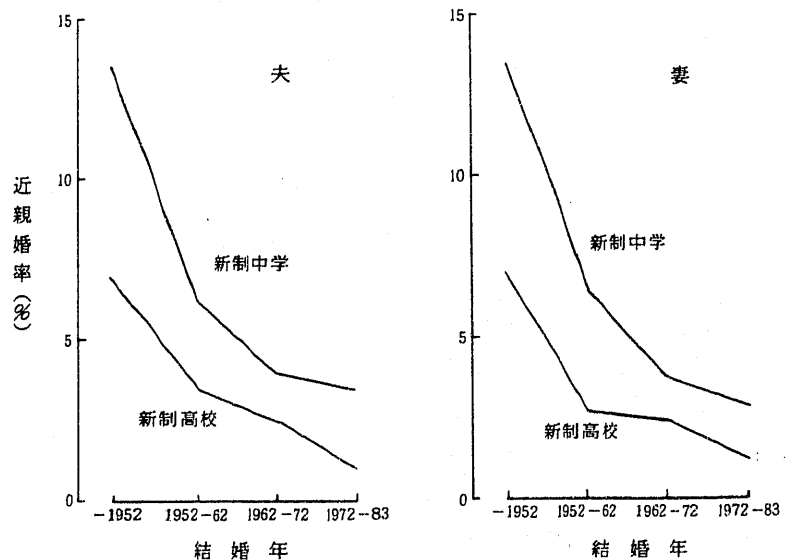
5. 学 歴

学歴を新制中学(旧制高小, 旧制小学校), 新制高校・旧制中学校(旧制高女), 専修学校(新制高卒後), 短大・高専, 大学以上, その他に分類してどの学歴に該当するかを夫妻に尋ねた。表5は夫

表5 夫妻の学歴別にみた近親婚率

学 歴	夫			妻		
	夫婦総数	近親婚夫婦数	近親婚率(%)	夫婦総数	近親婚夫婦数	近親婚率(%)
新制中学、旧制高小、旧制小学校	3,055	208	6.81	3,143	212	6.75
新制高校、旧制中学校または旧制高女	3,362	86	2.56	3,805	91	2.39
専修学校(新制高卒後)、短大、高専	925	32	3.46	1,485	40	2.69
大 学 以 上	1,301	29	2.23	225	7	3.11
そ の 他	37	1	2.70	37	3	8.11
不 詳	545	2	0.37	530	5	0.94
合 計	9,225	358	3.88	9,225	358	3.88

図5 夫妻の学歴別にみた近親婚率の年次推移



13) Yoko Imaizumi, "Factors influencing the frequency of consanguineous marriages in Japan : marital distance and opportunity of encounter", *Human Heredity*, Vol. 36, 1986b, pp. 304-309.

妻の学歴別に近親婚率を示している。夫妻共に新制中学卒で一番高い値（6.8%）を示し、近親婚率は高学歴になるほど低い値を示している。次に、夫妻の学歴別にみた近親婚率の年次推移をみることにしたい（図5）。

表6 夫妻の結婚前の職業別にみた近親婚率

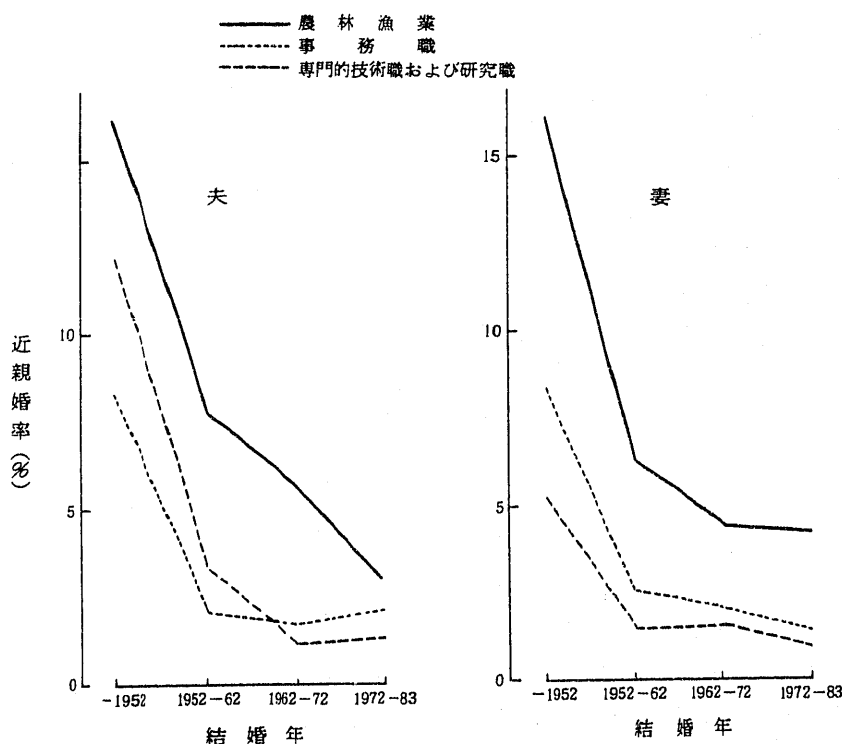
結婚前の職業	夫			妻		
	夫婦総数	近親婚夫婦数	近親婚率(%)	夫婦総数	近親婚夫婦数	近親婚率(%)
農 林、漁 業	1,032	96	9.30	1,019	94	9.22
上記以外の自営業	755	33	4.37	263	17	6.46
事務職	1,679	45	2.68	2,846	64	2.25
技能職および一般労働職	2,203	87	3.95	1,109	59	5.32
販売職	631	14	2.22	562	16	2.85
管理職	159	4	2.52	15	0	0
専門的技術職および研究職	850	22	2.59	760	12	1.58
サービス、保安、運輸通信	1,038	37	3.56	784	20	2.55
無 職	43	2	4.65	137	5	3.65
そ の 他	44	1	2.27	636	37	5.82
不 詳	791	17	2.15	1,094	34	3.11
合 計	9,225	358	3.88	9,225	358	3.88

近親婚率は夫妻共に新制中学卒の方が新制高校卒よりどの年次でも高い値を示しており、これらの値は年次と共に減少していることが分かる。なお、今泉（1986）は学歴別近親婚率の年次推移について、詳しく分析している¹⁴⁾。

6. 職 業

夫妻が結婚前に従事していた職業を9種類に区分し、どの職業に該当するかを尋ねた。表6は結婚前の職業別にみた近親婚率を示している。夫妻共に農林・漁業で一番高く（9%）、次は自営業（夫は4.4%、妻は6.5%）である。一方、一番低い値は夫が販売職（2.2%）、妻は専門的技術職および研究職（1.6%）である。したがって、近親婚率は職業によってかなりの格差がみられることが分かる。図6は夫妻の結婚前の職業別にみた近親婚率の年次推移を示している。夫または妻が農林・漁業に従事している夫婦の近親婚率は、どの年次でも一番高い値を示している。妻が専門的技術および研究職の場合には、どの年次でも一番

図6 夫妻の結婚前の職業別にみた近親婚率の年次推移



14) Yoko Imaizumi, "A recent survey of consanguineous marriages in Japan: religion and socio-economic class effects", *Annals of Human Biology*, Vol. 13, 1986c, pp. 317-330.

低い値を示している。なお、今泉は職業別近親婚率の年次推移について、詳しく分析している¹⁵⁾。

7. 宗 教

インドにおいては、近親婚率は宗教により異なることが知られている。最近におけるDeviら¹⁶⁾の報告によると、近交係数はヒンズー教徒の方が回教徒やカトリック教徒の値より2倍ほど高い。一方、わが国においては、神教で一番高い近親婚率を示し、次が仏教徒で高く、一番低いのはカソリック教徒であった。しかしながら、わが国では信仰している宗教を特別に持たない人々がかなりいる。そこで、本報告では宗教無しを含めている。なお、上記の報告は長崎県で行われた調査である。次に、今回の調査について述べることにしたい。

宗教の分類として仏教、神教、カソリック、その他、特に無しの5種類に区分し、夫と妻に信仰している宗教はどれに該当するかを尋ねた。表7は夫妻が信仰している宗教の分布を地域別にみたものである。仏教を信仰している者の割合は夫34—65%、妻37—64%、神教の割合は夫1.0—2.7%、妻1.0—3.1%、カソリックの割合は夫0.06—4.1%、妻0.13—4.7%、その他の宗教の割合は夫0.4—1.3%、妻0.7—1.8%、宗無しの割合は夫15—51%、妻14—49%である。福江市の宗教の分布は他の地域の値に比べて、特にカソリックとその他の宗教で異なっていることが分かる。次に、宗教別に近親婚率をみることにしたい。

表8は夫と妻の宗教別に近親婚率を地域別にみたものである。地域別の宗教の分布から福江市とそれ以外の5地域は異なった分布を示しているので、以下の分析では福江市とそれ以外の5地域に分けて近親婚率の比較をしたい。まず5地域での近親婚率をみると、夫ではその他の宗教での近親婚率が一番高く7%、次に高いのが仏教で4%である。これに対し、妻では仏教が一番高く4%、次がその他の宗教で3%である。一方、一番低い値は夫ではカソリックで0、二番目に低いのが特に無しで2%、妻では一番低い値は特に無しで2.2%、次がカソリックと神教で2.4%である。次に、福江市での近親婚率をみることにしたい。夫妻共に仏教と神教の近親婚率は9.5%と高い値を示している。これに対し、特に無しでは夫妻共に5%と低い値を示している。なお、カソリックでの近親婚率は夫9%、妻7%と高い値を示している。調査地域全体から見ると、近親婚率は夫妻共に仏教で高く、特に無しでは低い値を示していることが分かる。

8. 続 柄

わが国においては、あととりが“家や田畑”を相続する習慣があるため、あととりの結婚のほうが非あととりの結婚より保守的な傾向にあると思われる。そこで、続柄別に近親婚率をみることにした(表9)。夫の場合、近親婚率はあととり4.3%、非あととり3.8%に対し、妻の場合にはそれぞれ3.6%と4.1%になり、夫婦共に続柄によって近親婚率の差は得られなかった。

9. 結婚の動機

結婚の動機14項目の中から最も重要な結婚の動機について夫妻に尋ねた。ここでは、14項目を5項目に再分類して近親婚率との関係を見た(表10)。夫妻共に個人的動機で結婚した夫婦が一番低い近親婚率を示している。一方、夫の場合には外圧的動機で結婚した夫婦で高い値(8.1%)を示し、個人的動機で結婚した夫婦の値に比べて3倍も高い。同じく、妻の場合にも外圧的動機での値(5.0%)は個人的動機での値の2倍ほど高い。

15) 今泉洋子, 前掲(注14)。

16) A. R. R. Devi, et al., "Inbreeding in the state of Karnataka, South India", *Human Heredity*, Vol. 32, 1982, pp. 8-10.

表7 地域別にみた夫と妻が信仰している宗教の分布

地域 宗教	旭川地方		多賀城市		身延町		岡崎市		川西市		福江市		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
夫														
仏教	712	46.11	583	36.83	778	50.03	588	38.51	502	34.43	1,013	65.02	4,176	45.27
神教	38	2.46	31	1.96	16	1.03	30	1.96	34	2.33	42	2.70	191	2.07
カソリック	8	0.52	9	0.57	1	0.06	3	0.20	9	0.62	64	4.11	94	1.02
その他の	11	0.71	6	0.38	8	0.51	17	1.11	19	1.30	10	0.64	71	0.77
特になし	656	42.49	802	50.66	526	33.83	723	47.35	689	47.26	231	14.83	3,627	39.32
不詳	119	7.71	152	9.60	226	14.53	166	10.87	205	14.06	198	12.71	1,066	11.56
合計	1,544	100.00	1,583	100.00	1,555	99.99	1,527	100.00	1,458	100.00	1,558	100.01	9,225	100.01
妻														
仏教	708	45.85	611	38.60	787	50.61	608	39.82	534	36.63	998	64.06	4,246	46.03
神教	44	2.85	32	2.02	15	0.96	33	2.16	45	3.09	42	2.70	211	2.29
カソリック	14	0.91	10	0.63	2	0.13	6	0.39	10	0.69	73	4.69	115	1.25
その他の	19	1.23	14	0.88	11	0.71	21	1.33	26	1.78	15	0.96	106	1.15
特になし	644	41.71	775	48.96	518	33.31	690	45.19	640	43.90	224	14.38	3,491	37.84
不詳	115	7.45	141	8.91	222	14.28	169	11.07	203	13.92	206	13.22	1,056	11.45
合計	1,544	100.00	1,583	100.00	1,555	100.00	1,527	100.01	1,458	100.01	1,558	100.01	9,225	100.01

表8 地域、夫妻の宗教別近親婚率

地域 近親婚率 宗教	旭川地方		多賀城市		身延市		岡崎市		川西市		福江市		5地域*	
	近親婚 の組数	近親婚率 (%)	近親婚 の組数	近親婚率 (%)	近親婚 の組数	近親婚率 (%)	近親婚 の組数	近親婚率 (%)	近親婚 の組数	近親婚率 (%)	近親婚 の組数	近親婚率 (%)	近親婚 の組数	近親婚率 (%)
夫														
仏教	8	1.12	17	2.92	53	6.81	23	3.91	25	4.98	96	9.48	126	3.98
神教	0	0	2	6.45	2	12.50	1	3.33	0	0	4	9.52	5	3.36
カソリック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	9.38	0	0
その他	1	9.09	0	0	2	25.00	1	5.88	0	0	1	10.00	4	6.56
特になし	2	0.30	25	3.12	19	3.61	12	1.66	18	2.61	11	4.76	76	2.24
不詳	1	0.84	4	2.63	10	4.42	2	1.20	7	3.41	5	2.53	24	2.76
合計	12	0.78	48	3.03	86	5.53	39	2.55	50	3.43	123	7.89	235	3.07
妻														
仏教	8	1.12	8	2.95	53	6.73	24	3.95	30	5.62	97	9.72	133	4.09
神教	0	0	0	0	2	13.33	1	3.03	1	2.22	4	9.52	4	2.37
カソリック	0	0	0	0	1	50.00	0	0	0	0	5	6.85	1	2.38
その他	1	5.26	0	0	1	9.09	1	4.76	0	0	1	6.67	3	3.30
特になし	2	0.31	25	3.23	18	3.47	11	1.59	15	2.34	11	4.91	71	2.17
不詳	1	0.87	5	3.55	11	4.95	2	1.18	4	1.97	5	2.43	23	2.71
合計	12	0.78	48	3.03	86	5.53	39	2.55	50	3.43	123	7.89	235	3.07

* 福江市を除く。

表9 続柄別にみた近親婚率

	続柄	他人結婚	近 親 婚					不 詳	合 計	いとこ婚率(%)	全近親婚率(%)	近交係数
			いとこ	いとこ半	またいとこ	またいとこ半	その他					
夫	あととり	3,690	68	31	48	15	20	349	4,221	1.61	4.31	0.00138
	非あととり	3,840	73	19	43	11	20	395	4,401	1.66	3.77	0.00134
	不詳	160	5	1	1	0	3	433	603	0.83	1.66	0.00060
	合計	7,690	146	51	92	26	43	1,177	9,225	1.58	3.88	0.00134
妻	あととり	1,465	23	7	15	8	6	117	1,641	1.41	3.60	0.00119
	非あととり	6,164	119	43	74	18	37	635	7,090	1.68	4.10	0.00142
	不詳	61	4	1	3	0	0	425	494	0.81	1.62	0.00066
	合計	7,690	146	51	92	26	43	1,177	9,225	1.58	3.88	0.00134

表10 夫と妻の結婚の動機別にみた近親婚率

結婚の動機	他人結婚	近 親 婚					不 詳	合 計	近親婚率(%)
		いとこ	いとこ半	またいとこ	またいとこ半	その他血縁			
夫									
個人的動機	4,341	50	19	38	9	17	294	4,768	2.79
準個人的動機	541	14	7	6	7	1	56	632	5.54
社会経済的動機	643	15	6	11	2	7	66	750	5.47
社会規範的動機	506	9	4	8	0	2	44	573	4.01
外圧的動機	477	14	2	8	5	5	42	553	6.15
その他	33	1	0	1	0	1	1	37	8.11
不詳	1,149	43	13	20	3	10	674	1,912	4.66
合計	7,690	146	51	92	26	43	1,177	9,225	3.88
妻									
個人的動機	4,038	41	15	34	11	13	264	4,416	2.58
準個人的動機	666	18	6	9	0	8	79	786	5.22
社会経済的動機	399	10	3	4	2	2	43	463	4.54
社会規範的動機	553	9	3	7	0	3	55	630	3.49
外圧的動機	1,057	23	8	18	5	7	99	1,217	5.01
その他	34	1	0	0	1	0	2	38	5.26
不詳	943	44	16	20	7	10	635	1,675	5.79
合計	7,690	146	51	92	26	43	1,177	9,225	3.88

V 近親婚の理由

近親婚をした358組の夫婦について、血縁関係のある配偶者を選んだ理由を夫と妻に尋ねた。表11は近親婚をした理由の内訳を近親婚の種類別に示している。近親婚をした理由の中で一番高い頻度を示す項目は夫妻共に「両親や親類にすすめられて」（夫は43％，妻は44％），第二位は「親類として気心も知れていたから」（夫は30％，妻は24％），第三位は「幼な友達だったから」（夫妻とも5.3％）の順であった。次に、近親婚の理由を結婚年次が1957年5月31日以前と以後とで比較すると、「両親や親類にすすめられて」の割合は後者（41％）の方が前者（48％）より7％低い、「親類として気心も知れていたから」の割合は同程度（28—29％）、「幼友達だったから」の割合は後者（7％）の方が前者（4％）より僅かに高い値が得られた。以上のことから、近親婚の理由は年次と共に僅かながら変化していることがわかる。次に、結婚形態別に近親婚の理由をみることにしたい（表12）。恋愛結婚では「親類として気心も知れていたから」の割合が一番高く（夫は49％，妻は38％），次が「幼友達だったから」（夫は15％，妻は17％）。一方、見合い結婚では「両親や親類にすすめられて」の割合が一番高く（夫は56％，妻は53％），次が「親類として気心も知れていたから」（夫は21％，妻は16％）の順であった。したがって、近親婚をした理由は結婚形態によって非常に異なることがわかる。なお、近親婚の理由は夫婦の出生地組み合わせ、知り会った機会、結婚の動機によっても異なる

表11 近親婚をした理由の内訳と近親婚率

	近親婚の理由	近親婚の種類						百分率	近親婚率(%)
		いとこ	いとこ半	またいとこ	またいとこ半	その他	合計		
夫	幼な友達だったから	10	4	2	0	3	19	5.3	0.21
	親類として気心も知れていたから	44	23	31	2	7	107	29.9	1.16
	両親や親類にすすめられて	69	17	36	16	17	155	43.3	1.68
	財産に関係して	0	0	1	0	0	1	0.3	0.01
	その他	3	2	8	5	4	22	6.1	0.24
	不詳	20	5	14	3	12	54	15.1	0.59
	合計	146	51	92	26	43	358	100.0	3.88
妻	幼な友達だったから	9	4	2	0	4	19	5.3	0.21
	親類として気心も知れていたから	39	14	27	2	4	86	24.0	0.93
	両親や親類にすすめられて	69	24	34	14	17	158	44.1	1.71
	財産に関係して	0	0	1	0	0	1	0.3	0.01
	その他	3	3	10	3	4	23	6.4	0.25
	不詳	26	6	18	7	14	71	19.8	0.77
	合計	146	51	92	26	43	358	99.9	3.88

表12 結婚形態別にみた近親婚の理由の内訳

近親婚の理由	恋愛(81)	見合い(180)	その他(87)	不詳(10)	合計(358)
夫					
幼な友達だったから	14.8%	3.3%	1.2%	0.0%	5.3%
親類として気心も知れていたから	49.4	21.1	31.0	20.0	29.9
両親や親類にすすめられて	6.2	55.6	52.9	40.0	43.3
財産に関係して	1.2	0.0	0.0	0.0	0.3
その他	13.6	4.4	3.5	0.0	6.1
不詳	14.8	15.6	11.5	40.0	15.1
合計	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0
妻					
幼な友達だったから	17.3%	2.2%	1.2%	0.0%	5.3%
親類として気心も知れていたから	38.3	15.6	28.7	20.0	24.0
両親や親類にすすめられて	13.6	52.8	54.0	50.0	44.1
財産に関係して	1.2	0.0	0.0	0.0	0.3
その他	12.3	5.6	3.5	0.0	6.4
不詳	17.3	23.9	12.6	30.0	19.8
合計	100.0	100.1	100.0	100.0	99.9

カッコ内の数字は夫婦組数

ることが明らかにされている¹⁷⁾。

VI 近親婚をしなかった理由

他人結婚をした7,690組の夫婦について、血縁関係のない配偶者を選んだ理由を夫と妻に尋ねた。表13は近親婚をしなかった理由の内訳とその年次推移を示している。血縁関係のない配偶者を選んだ理由の第一位は「特に意識せず」(夫は69%, 妻は68%)である。なお、この割合は年次と共に上昇しており、最近結婚したグループでの値は76%前後である。「血縁者を結婚対象として考えられなかったから」、「避けた方が良いと思って」と答えた者の割合は両項目とも同程度であり、夫は12%, 妻は13%である。これら項目の年次推移をみると、前者は上昇傾向、後者は減少傾向がみられ、1962—1967年の間に両項目の順位は逆転し、最近結婚したグループでは前者の方が後者より僅かに高い値が得られた。なお、血縁関係のない配偶者を選んだ理由として「特に意識せず」と答えた者の割合が高いグループは恋愛結婚、信仰している宗教を持たない者、配偶者の出生地距離が遠い夫婦、高学歴者などであった。更に、この割合の地域差は僅かであった。

VII 近親婚率の国際比較

わが国における近親婚の頻度が諸外国の値に比べて、どの程度の水準にあるかを見るために、近親婚率の国際比較をすることにしたい(表14)。この表に示してあるように、クウェートの近親婚率は54%と非常に高い値を示している。同じく、インドとエジプトの近親婚率は29%, レバノンの値は26%と高い値を示している。これらの國々の値と比べると、わが国の値は4%弱であるから、かなり低

17) Yoko Imaizumi, "Reasons for consanguineous marriages in Japan", *Journal of Biosocial Science*, Vol. 19, 1987, pp.97-106.

表13 近親婚をしなければならなかった理由の内訳と、その年次推移

結婚年	夫					妻						
	特に意識せず	血縁者を結婚対象として考えられなかったから	避けたい方が良いと思ってる	その他	不詳	合計	特に意識せず	血縁者を結婚対象として考えられなかったから	避けたい方が良いと思ってる	その他	不詳	合計
1952年6月以前	487	66	166	6	53	778	484	66	162	4	62	778
1952年6月～1957年5月	517	79	147	1	33	777	499	79	157	1	41	777
1957年6月～1962年5月	617	102	145	3	59	926	602	107	152	2	63	926
1962年6月～1967年5月	724	161	147	3	64	1,099	693	182	160	1	63	1,099
1967年6月～1972年5月	878	184	133	3	65	1,263	842	222	129	3	67	1,263
1972年6月～1977年5月	908	155	109	2	74	1,248	906	174	118	2	48	1,248
1977年6月～1983年8月	997	156	103	1	47	1,304	981	173	116	1	33	1,304
不詳	196	33	33	1	32	295	194	31	32	0	38	295
合計	5,324	936	983	20	427	7,690	5,201	1,034	1,026	14	415	7,690
							率					
1952年6月以前	62.60	8.48	21.34	0.77	6.81	100.00	62.21	8.48	20.82	0.51	7.97	99.99
1952年6月～1957年5月	66.54	10.17	18.92	0.13	4.25	100.01	64.22	10.17	20.21	0.13	5.28	100.01
1957年6月～1962年5月	66.63	11.02	15.66	0.32	6.37	100.00	65.01	11.56	16.41	0.22	6.80	100.00
1962年6月～1967年5月	65.88	14.65	13.38	0.27	5.82	100.00	63.06	16.56	14.56	0.09	5.73	100.00
1967年6月～1972年5月	69.52	14.57	10.53	0.24	5.15	100.01	66.67	17.58	10.21	0.24	5.30	100.00
1972年6月～1977年5月	72.76	12.42	8.73	0.16	5.93	100.00	72.60	13.94	9.46	0.16	3.85	100.01
1977年6月～1983年8月	76.46	11.96	7.90	0.08	3.60	100.00	75.23	13.27	8.90	0.08	2.53	100.01
不詳	66.44	11.19	11.19	0.34	10.85	100.01	65.76	10.51	10.85	0	12.88	100.00
合計	69.23	12.17	12.78	0.26	5.55	99.99	67.63	13.45	13.34	0.18	5.40	100.00

い値であることが分かる。しかしながら、ヨーロッパの値(0.54—1.38%)やアメリカの値(0.08%)に比べると、まだかなり高い値であることが分かる。しかしながら、既に第2節で述べたが、わが国の近親婚率は近年に至るまで減少している。したがって、わが国の近親婚率は

表14 最近における近親婚率の国際比較

国名	年次	結婚総数	近親婚率(%)	著者 ¹⁸⁾
クウェート	1983	5,007	54.32	Al-Awadi 他(1985)
インド	1981	3,350	29.24	Devi 他(1982)
エジプト	—	26,554	28.96	Hafez 他(1983)
レバノン	1981—1982	750	26.00	Klat 他(1984)
タンザニア	—	931	17.72	Stevens 他(1977)
ビルマ	1976	855	6.20	Kyu 他(1981)
日本	1983	9,225	3.88	今泉(1986)
ノルウェー	1967—1972	401,671	1.38	Saugstad(1977)
イギリス	1972—1973	946	0.85	Coleman(1980)
ハンガリー	—	5,229	0.54	Czeizel 他(1976)
アメリカ	1972—1981	140,289	0.08	Lebel(1983)

これから先も減少を続け、徐々にヨーロッパの近親婚率の水準に近づくことが期待される。

18) 次掲の諸文献を参照。

S. A. Al-Awadi, et al., "Consanguinity among the Kuwaiti population", *Clinical Genetics*, Vol. 27, 1985, pp. 483-486.

D. A. Coleman, "A note on the frequency of consanguineous marriages in reading, England in 1972/1973", *Human Heredity*, Vol. 30, 1980, pp. 278-285.

A. Czeizel, et al., "The occurrence of consanguineous marriages in Hungary", *Human Heredity*, Vol. 26, 1976, pp. 110-112.

A. R. R. Devi, et al., 前掲(注16).

M. Hafez, et al., "Consanguineous matings in the Egyptian population", *Journal of Medical Genetics*, Vol. 20, 1983, pp. 58-60.

Yoko Imaizumi, 前掲(注9).

M. Klat, et al., "Cousin marriages in Beirut, Lebanon: Is the pattern changing?", *Journal of Biosocial Science*, Vol. 16, 1984, pp. 369-373.

H. Kyu, et al., "Human genetics in Burma", *Human Heredity*, Vol. 31, 1981, pp. 291-295.

R. R. Lebel, "Consanguinity studies in Wisconsin I: Secular trends in consanguineous marriage, 1843-1981", *American Journal of Medical Genetics*, Vol. 15, 1983, pp. 543-560.

L. F. Saugstad, "Inbreeding in Norway", *Annals of Human Genetics*, Vol. 40, 1977, pp. 481-491.

A. Stevens, et al., "Inbreeding coefficients of the Hadza", *Annals of Human Biology*, Vol. 4, 1977, pp. 219-223.

Factors Influencing the Frequency of Consanguineous Marriages in Japan

Yoko IMAIZUMI

A survey of consanguineous marriages in Japan was conducted on September 1 in 1983 through questionnaires. The total number of couples studied was 9,225, chosen from six widely different areas of Japan. The rates of first cousin marriages and of total consanguineous marriages for all areas were 1.6% and 3.9%, respectively. The rate of total consanguineous marriages was ten times higher in Fukue-Shi (7.9%) than Asahikawa city area (0.78%). The rate of total consanguineous marriages decreased with the marriage year in Japan, where the rate of first cousin marriages has changed remarkably.

The rates of consanguineous marriages were estimated according to marital distance between birthplaces, socioeconomic classes, religion, marriage form, opportunity of encounter, and motivation towards marriage. Among educational groups, the rate was highest in graduates of junior high school for husbands and wives, whereas the rate was lowest in graduates of a college, university or graduate course for husbands and wives. Among six religious groups, the rate of consanguineous marriages was the highest in Buddhists, and lowest in "no religion" and Catholics. Occupationally, the rate was the highest in agriculture, forestry and fishery for husbands and wives, whereas the rate was lowest among salesmen, for husbands, and in professional occupations and researchers, for wives. As for opportunities of encounter, the rate was 22-29 times higher in the group for friendship from the time of childhood (25.8%) than in those for school, workplace and social gatherings (1.2%) and for chance meetings (0.9%).

Recommendation by parents or relatives was the most frequent reason for consanguineous marriage, for both husbands and wives, followed by knowledge of the partner by relatives.